

# 摘心による在来大豆「行田在来」の 倒伏防止技術

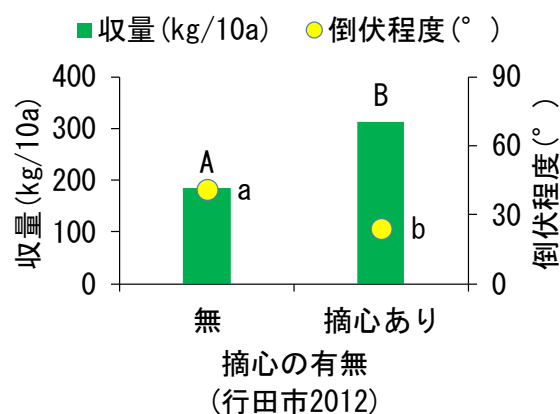
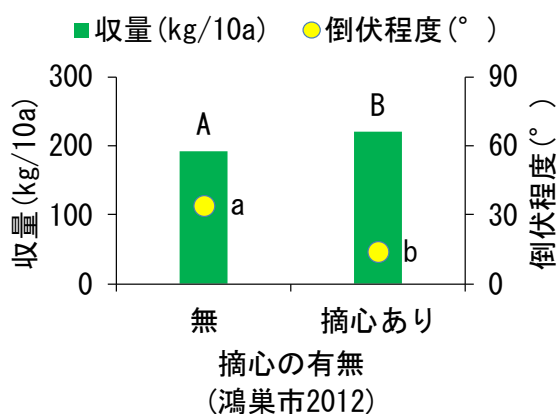
在来大豆はその食味や希少性から市場性がありますが、草丈が長く、倒れやすいことから、大規模な機械栽培には向いていません。そこで近年開発された大豆摘心機を使って、在来大豆「行田在来」の花が咲く少し前から花が咲く頃に、茎の先端を 10cm 程度切り飛ばすこと(摘心)で、草丈が短くなり、倒れにくくなりました。倒れないことで機械収穫の作業がしやすくなります。また、害虫や病害による被害粒も減り、収量が増える場合もありました。



大豆摘心機による作業の様子  
1 時間に 90a 程度の  
面積の作業ができます。



摘心の様子  
作業機の刃で刈り取っていきます。



摘心が倒伏程度および収量に及ぼす影響(県内現地)  
倒伏程度は 0° が倒伏なし、90° が全面倒伏  
異なる英文字間は 5%水準で有意差あり。  
(水田農業研究所 米・麦担当 TEL:048-521-5041)